

可茂農林事務所の普及活動状況 令和6年10月30日現在

ぎふ農業・農村を支える人材育成

■岐阜県女性農業経営アドバイザー（GLAMA） 視察研修会支援

10月9日、GLAMAいきいきネットワーク視察研修会が富加町で開催され、県内の女性農業経営アドバイザー、指導農業士パートナー、関係者合わせて75名が参加した。

今年度の県連研修担当である中濃ブロック可茂地区（会員6名）が中心となって企画し、『農スタイル十人十色』をテーマに、「色彩心理とカラーマーケティング」と題した基調講演、富加町女性農業経営アドバイザー3名による富加町農業と各自の農業経営の紹介、(有)丸富園芸の花き施設の視察を行った。基調講演では小グループに分かれてワークショップも行い、アドバイザー相互の交流を図ることができ、テーマに沿った充実した研修が開催できた。

農林事務所では、アドバイザーの自主的な組織活動への支援を引き続き行っていく。

（地域支援第二係）



【花き施設の視察の様子】

■青年農業士・4Hクラブ 「可茂地区若人のつどい」を開催

可茂地区青年農業士会と可茂地区4Hクラブは10月16日、美濃加茂市内で意見交流会「若人のつどい」を開催し、青年農業士3名と4Hクラブ員5名が参加した。

今回は、可茂管内の若手新規就農者と農業参入法人に案内したところ、5名の参加があった。青年農業士、4Hクラブの活動を紹介し勧誘活動をするとともに、生産者同士の新たな繋がりができ、栽培状況や経営について活発な意見交流の場となった。

農林事務所では、今回の意見交流会開催に向けた支援を行ってきたが、今後も会員のスキルアップや交流につながる活動を支援していく。

（地域支援第二係）



【意見交流の様子】

ぎふ農畜水産物のブランド展開

■夏秋トマト ぎふ清流GAPの取り組みを支援

美濃白川夏秋トマト部会では、持続可能な農業経営を目指した取り組みの一つとして、ぎふ清流GAPの取り組みを始めた。農林事務所では、今年度申請を目指している1経営体に対し、5月と10月に模擬審査とそれに基づき改善項目の洗い出しと改善方法の提案や助言を行った。そして、10月22日にぎふ清流GAP推進センターによる農場審査が行われ、生産から出荷までの食品安全管理体制や環境保全の取り組み、労働安全の対策など100項目以上について書類や記録、農場の取り組み状況が確認された。農林事務所は今回の農場審査にも立会い、生産から出荷の流れや栽培研修会などトマト部会全体の活動について補足説明を行った。

農林事務所では、今後も持続的な農業を推進するための手法として、GAPの取り組み支援を継続する。



【農場審査を受ける生産者(右奥)】

※GAP：「農業生産工程管理」と訳され、食品安全、環境保全、労働安全などの観点から、農業生産工程に潜むリスクを管理し、持続的に農業を行うための取組み。

(園芸産地支援係)

■夏秋なす JAめぐみの夏秋なす生産協議会外部視察研修会の支援

JAめぐみの夏秋なす生産協議会はJA管内の各なす部会（中濃、みのかも、白川、可児）で構成されている組織である。

10月1日に協議会活動として愛知県幸田町夏秋なす部会への視察研修が開催され、生産者17名、関係者13名が参加した。

視察先では、ほ場巡回による栽培管理の向上や市場との連携など活発な部会活動による県内トップクラスの品質・単価の維持への取り組み、整枝・せん定など基本技術の徹底が重要であるとの話があり、参加者は質疑を通して改めて的確な栽培管理の取り組みに対する意識を新たにしたところである。

農林事務所は今年度のなす栽培での課題を踏まえ、次年度以降のなす産地の維持・発展に向けて支援していく。

(地域支援第一係)



【産地説明を聞く生産者】